

デジタルシティサービスとは、3D都市モデルなどのデータを保管し
そのデータの可視化に必要な環境をG空間情報センターが提供するものです。

デジタルシティサービスの概要

なぜ必要か? 今のオープンデータ、ビッグデータ、AI等の技術進展のなかで都市レベルでのデータ流通が進み始め、それぞれの自治体等でも充実してきています。しかし、実際の都市をどれくらい再現できているか、すなわちデジタルツインとしての利用ポテンシャルがどれくらいあるかはすぐには判断できず、全体像を掴むにはその度に「データの棚卸し作業」に途方もない稼働を費やす必要がありました。

何を提供しているのか? 本サービスでは、リアルタイムなデジタルツイン環境を提供していくために、データセットそのものと三次元都市空間の可視化環境を一体的に扱う環境を低廉な価格で地方公共団体向けに提供するサービスです。具体的には、オリジナルデータを一度データレジストリ上に登録することで可視化画像を構築、三次元都市空間上でもスムーズに可視化が可能となります。

主な特徴

- 各都市の公共施設やインフラに関するデータ・都市計画・ハザードマップなどの情報を三次元都市空間上でスムーズに可視化が可能となります。
- 本サービスは、地方公共団体の職員だけでなく、住民や地域に関係する団体等も閲覧することができます。まちの状況を分かりやすく可視化することで、まちの課題や今後のまちの在り方を住民参加のもと検討していくための重要な役割を担うことが可能となります。

デジタルシティサービスの導入例

2021年は、地方公共団体9団体を対象に無償で試験提供をしており、本サービスに関するニーズ・課題等の整理を行い、より良いサービスの構築に備える準備をしています。

